

# 常光寺周辺ウォーキングマップ

■常光寺へのアクセス：近鉄大阪線 八尾駅下車 西に徒歩約5分  
 ※車でお越しの場合は、中央環状線・八尾枚方線より入る。  
 境内が駐車場として使用可能。

## 穴太神社（あのおじんじゃ）

当地域は安康天皇の設けられた穴穂部の地、聖徳太子の生母間人穴太部皇後の成人の地といわれています。当社は古代氏族穴太氏の一族の祖神を祭る産土神で、境内に残る寺跡はその氏寺であったと考えられています。

## 常光寺（じょうこうじ）

臨済宗南禪寺金地院末。「八尾の地藏さん」として親しまれています。行基の創建で、南北朝の戦乱で焼失しましたが、又五郎大夫藤原盛継が再興しました。足利義満が参詣し、造営の材木を寄進し額を書きました。また、大阪夏の陣で藤堂高虎はこの寺の縁側で敵の首実検をし、今でも血天井として残されています。夏の地藏盆の際の、河内音頭による盆踊りは河内風物詩として名高いものです。

## 八尾天満宮（やおてまんぐう）

八尾寺内町の鎮守で、「八尾の天神さん」といわれています。祭神は天穂日命と菅原道真で、慶長年間に片桐且元が建てたとされています。境内には、八尾寺内町開発者森本行誓の六代の孫房吉寄進の灯籠が並んでいます。

## 八尾御坊大信寺

## 八尾御坊大信寺（やおごぼうだいしんじ）

真宗東本願寺の別院です。慶長11年（1606年）久宝寺村の森本七郎兵衛貞治ら17人衆は、東西本願寺の分立に際し、東本願寺教如上人に属したため、村を出て八尾庄四町四方の地を与えられて移住、八尾御坊を建立、寺内町をつくり、八尾発展の基を開きました。万治3年（1660年）現地に移建、天明8年（1788年）京都本山が焼けたときは、この本堂を移して仮御影堂に代え、10年後に再びかえされ旧に復しました。昭和28年3月3日突如本堂の棟がくずれ、その後全面改修となりました。県庁跡の碑があります。

## 慈願寺（じがんじ）

真宗東本願寺末。開基は親鸞聖人直弟24輩のうち第13番信願房法心（俗名那須肥前守資村）といい、弘安3年（1280年）運命により久宝寺村に慈願寺を建て、文明2年（1470年）蓮如上人久宝寺布教のさいは、久宝寺に顕証寺が設けられ、東大阪の真宗弘布の中心となりました。慶長11年（1606年）東本願寺につき、森本行誓ら17人衆と八尾に移り、院家として八尾御坊大信寺の役寺となりました。親鸞聖人絵伝など寺宝が多くあります。

## 環山楼（かんばんろう）

もとは新市庁舎別館の裏にありました。その後旧庁舎の玄関前に移り、さらに現地へ移りました。江戸時代、当時八尾の豪商であった石田利清が設けた河内の中心地八尾にあった唯一の私塾です。伊藤東涯が招かれて講じ、高安・二上・金剛の山なみを一望し、その景観から環山楼と名づけました。石田一族の墓は郡川の法蔵寺にありますが、今は無縁墓に集められています。

